

# かわすみ家



火打金と火打石を打って火口に火の粉を落とし、附木につけて火をつける **火打箱**

特集 / 企画展示  
昔の道具展  
- 灯りと暖房 -

pick up!  
端午の節句展  
万葉の花写展  
歴史コラム  
日下の瀬「石切剣箭神社上之社」  
河澄家の自然 原始蓮咲く



# 展示・イベントのご案内

旧河澄家企画展示

## 郷土の人々紙芝居画展

昭和天皇と皇太子殿下、神武天皇、楠木正行など東大阪布ゆかりの人々を、宮本直樹氏(お寺の出前「紙芝居屋亭」)が描いた紙芝居画の展示

展示期間：令和4年8月26日(金)～9月25日(日)

協力：お寺の出前「紙芝居屋亭」、大阪 浄土真宗本願寺派寛弘山観音寺住職 宮本直樹氏

---

旧河澄家企画イベント

### 郷土の人々紙芝居公演会

宮本直樹氏による郷土の人々をテーマとした紙芝居の公演

日時：令和4年8月28日(日) 13:00-15:00  
 場所：旧河澄家  
 定員：20名  
 参加費：無料  
 紙芝居：ワカタケとワカサカ(御膳人皇と皇后(皇太子御上))  
 神武東征記  
 楠木正行もここにあり

申込み：8月2日(火)9:30より受付開始  
 電話又はHPお問い合わせフォームより

---

■主催/お問い合わせ  
**旧河澄家** (東大阪市指定文化財)  
 住所：大阪府東大阪市長丁7番6-39  
 TEL & FAX 072-584-1640  
 営業時間：午前10時～午後6時  
 休館日：休館日(休館日は要予約)  
 HP: <http://www.kiyokawazaka.jp>  
 協賛企業：株式会社 アスワベル

■交通アクセス  
 本館(東大阪市長丁)より徒歩10分、JR東大阪線長瀬駅より徒歩20分  
 近畿車輛博物館、2022年5月14日(土)に閉館予定(休館日)  
 ※交通アクセスの詳細は、旧河澄家ウェブサイトにてご確認ください。

旧河澄家 企画展示

## 昔の道具展 「灯りと暖房」

令和4年  
**5.17(火) ▶ 9.25(日)**  
 9:30～16:30 (月曜日休館日)  
 会場：旧河澄家 蔵

火を賢く利用することで時国の中で明るさを  
 寒さの中で温もりを獲得してきたかつての人々――  
 旧河澄家に残る民具から、その叡智に少し触れてみませんか

---

■主催/お問い合わせ  
**旧河澄家** (東大阪市指定文化財)  
 住所：大阪府東大阪市長丁7番6-39  
 TEL & FAX 072-584-1640  
 営業時間：午前10時～午後6時  
 休館日：休館日(休館日は要予約)  
 HP: <http://www.kiyokawazaka.jp>  
 協賛企業：株式会社 アスワベル

■交通アクセス  
 本館(東大阪市長丁)より徒歩10分、JR東大阪線長瀬駅より徒歩20分  
 近畿車輛博物館、2022年5月14日(土)に閉館予定(休館日)  
 ※交通アクセスの詳細は、旧河澄家ウェブサイトにてご確認ください。

## 展示・イベント

「昔の道具展 - 灯りと暖房 -」  
 2022年5月17日(火)～9月25日(日)

あんがいおまる一座 朗読劇公演  
 「雨月物語 白峯」  
 2022年9月11日(日)

「郷土の人々 紙芝居画展」  
 2022年8月26日(金)～9月25日(日)

大阪府立近つ飛鳥博物館 古代体験会  
 「はにわを作ろう!」  
 2022年9月23日(日)

「論語の素読会」  
 毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニュースレター

## 目次



### 04 特集 昔の道具展 - 灯りと暖房 -

旧河澄家では約 1200 点の所蔵民具より灯りと暖房をテーマに展示。

### 06 日下の嘸 いしきりつるぎやじんじや にぎはやひのみこと 石切劔箭神社と饒速日尊

生駒山麓に鎮座する神社。「石切さん」と親しまれ、多くの人の信仰を集めている。

### 08 イベントレポート

春季ハイキング 辻子谷コースから草香山の自然と史跡を巡る

古民家で手作り和菓子体験 菓匠庵 白穂

バルーン体験教室

#### 旧河澄家の自然よりご報告

三年越し、「すごいぞ、原始蓮咲く！」

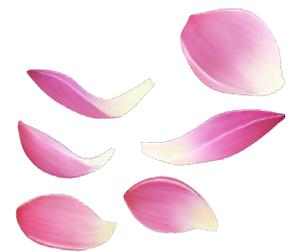
#### 近畿大学峰滝ゼミ REPORT

卓上鯉のぼり作り / 紙飛行機短冊と縁日ゲーム

### 10 Pick Up

端午の節句展

万葉の花写真展



### 12 イベントカレンダー



蓮の香や水をはなる茎二寸  
与謝蕪村



旧河澄家の自然  
原始蓮咲く

蓮の茎が水面から二寸ほど伸びて、葉をつけている。その葉が強く匂いを放っているという意味。

蓮は、茎二寸伸びたところが最も芳香を放ちます。

# 昔の道具展

## 灯りと暖房



図1 河澄家家紋入り提灯



図2 行燈



図3 燈台形燭台



図4 石油ランプ

平成29年に旧河澄家の蔵を展示施設として改装し、以来ほぼ毎年5月頃から10月頃まで民具の展示をして蔵を開放しています。

旧河澄家では、およそ1200点の民具を所蔵しており、種別は、衣食住をはじめ生業、運搬通信、団体生活、儀礼、信仰・行事、装飾・趣味など多岐にわたっています。

今年度は、「灯りと暖房」をテーマに展示を行いました。灯りも暖房も日々の生活には欠かすことのできない大切なものです。

灯りに関する民具はおよそ69点所蔵し、その中から平成28年に主屋で行った「旧河澄家民具からみる明かりの歴史―灯り展」から主要な灯火具を展示をしています。

灯火具は、歴史的にみれば燈明皿から蠟燭へと変遷し、江戸時代には和燭の普及によって燭台が公家・武家から徐々に商家、町屋などの間で一般的となりました。この過渡期を燈明皿と蠟燭立ての両方を備えた行燈(図2)にみるることができますし、燈明皿を設置するための燈台が完全に蠟燭を立てるための仕様に変更になった燈台形燭台(図3)にその変化をみるることができます。また、蠟燭の普及が灯りを持ち歩くことを容易にし、提灯が登場し

ました。旧河澄家には河澄と墨書した提灯や家紋あるいはプライベートで使った紋などが入る提灯が多く残ります(図1)。やがて石油ランプ(図4)が幕末に登場し明治時代には各家庭で用いられるようになりました。その明るさは蠟燭と比べものならず、驚きをもって迎えられたようです。西洋の石油ランプは当初、テーブル用の背の短いものでしたが、日本の生活様式に沿った背の高い形が生まれ、旧河澄家には、燈明皿の時代から変わらない形である菊燈台形の石油ランプが残っています。

暖房に関する民具はおよそ47点所蔵しています。「住」に関する民具の中では、灯火具に次いで多い点数です。このうちの湯たんぽ(図5)、火熨斗、火鉢、炭入れ、火箸、安全炬燵、炬燵櫓、行火、火容21点を展示しており、火鉢に関しては、様々な種類が見られます。

そもそもそのような暖房具を必要としたこの地域の冬の気候とは、どのようなものだったのでしょうか。「枚岡市史」(1965)に、昭和30年頃の気候の特徴についての記録があります。それによると、大坂盆地よりもやや冷え込みが強いが氷点下になる回数は少ない平坦部と1・2月の平均気温



図7 長火鉢



図6 陶製火鉢



図5 陶製湯たんぼ



図10 火熨斗



図9 行火



図8 炬燵檜

は氷点下0.5度程度とかなり冷え込む山上部、加えて山上部は夜間の湿度が高く、霧の日数も多く斜面ほどその傾向が強いとあります。旧河澄家は、生駒山上部と平坦部の間に位置し、山上部ほどは寒くないが、平坦部よりは寒いということになるでしょうか。実際はどうだったのでしょうか。

江戸時代、相庄屋として、日下村のもう一つの庄屋であった森長右衛門貞靖の日記には、旧暦の1月から2月にかけて、降雪の記録があります。旧暦1月には、「終日軽雪降」とあるなど、湿気と相まって冷え込んだのではないかと推察されます。

旧河澄家には、江戸時代以降の様々な形の火鉢―陶製(図6)、木製、金属製があります。手指を温め、湯を沸かす、餅を焼くといった簡単な調理もできた火鉢は便利な道具として重宝されました。長火鉢(図7)の抽斗に収納していた灰ならしや火箸もあわせて展示しています。また、布団をかぶせて使う炬燵や行火(図9)は、それ以前に起源をもつものの、江戸時代中期以降、河内木綿などの綿布団の普及によって一般に使われるようになりました。火傷しないよう木枠を施した安全炬燵や炬燵檜(図8)などもあります。

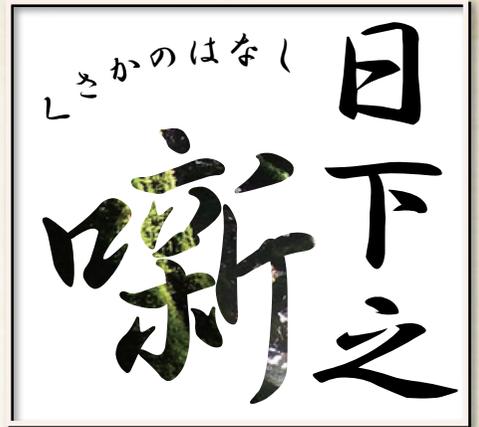
さらに、暖房という括りからは少し

外れるようですが、火熨斗(図10)も展示しています。火熨斗はいわゆる現代のアイロンですが、寒い夜に主人の寝具を温めたという記録が存在するため、ここでは暖房として展示しています。

最後に、灯火具の中で、忘れてはならないのが火打箱(表紙)です。灯りも暖房も点火しなければ役には立ちません。各家庭には、火打金、火打石、火口、附木の4点がセットになって備え付けられていました。この火打金と火打ち石を使って、点火実験を行った動画を旧河澄家のInstagramに投稿していますので、是非ご覧ください。



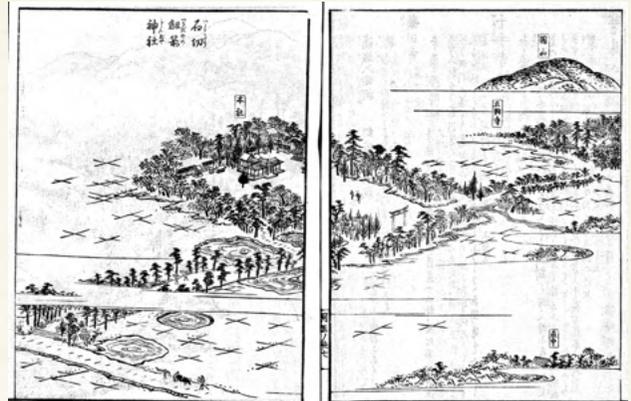
このQRコードを読み込んで表紙と同じ火打ち箱の画像をクリックしてね!



豊かな自然と文化の街、日下  
生駒山麓～日下地域、河澄家の  
過去から現在に至るまでのおはなし

いしきりつるぎや  
石切劔箭神社と饒速日尊  
にぎはやひのみこと

近鉄石切駅から徒歩で五分ほど南東に上ったところに石切劔箭神社上之社（いしきりつるぎやじんじやかみのしゃ）があります。社伝によると上之社は元々神武天皇紀元二年に生駒山中の宮山に創建されたと伝えられ、後にこの地に遷宮されました。享和元年（一八〇一年）に刊行された『河内名所図会』には石切劔箭神社が紹介され、その注釈には、「社説二云、上之社は哮峯（たけるがみね）にあり、下之社は当社也」と記されています。その下之社（しものしゃ）とされたのが、現在の本殿である石切劔箭神社です。「石切さん」と親しまれ、腫物の神様として今も多くの方参詣者を集めています。石切劔箭神社の祭神は饒速日尊（にぎはやひのみこと）とその子可美真手尊（うましまでのみこと）の二柱で、宮司は可美真手尊の末裔とされる木積氏が



河内名所図会 石切劔箭神社



石切劔箭神社 上之社

代々務め、江戸時代中頃までは木積宮（木積大明神）と呼ばれてきました。元禄十六年（一七〇三年）に奉行に提出された鳥居の修理を願う文書には、木積大明神主木積数馬と記され、享保十八年（一七三三年）に編纂された『河内志』には石切劔箭神社二座の説明に「木積宮」と記されています。代々祀官を務めた木積氏は本姓穂積氏といって古代有力豪族である物部氏の一族で、石切劔箭という名前は「石をも切れる鋭利な劔（つるぎ）と箭（や）」を意味し、軍事等をつかさどり饒速日尊を始祖とする物部氏（もののべし）にまつわる社としてふさわしい名と考えられています。明治五年六月には明治政府により上之社は、石切劔箭神社（下之社）に合祀され、明治十三年には復社したもの、明治四十年十一月には再び石切劔箭神社に合祀となり、その後昭和四七年に再興され、その時まで保存されて

いた旧本社建物がこの地に移築されました。

『先代旧事本紀(せんだいくじほんき)』(西暦八二七年頃成立)の記述によると、石切劔箭神社の祭神である饒速日尊は、天照大御神(あまてらすおおみかみ)の孫にあたる天火灯命(あめのひあかりのみこと)と同一人物であり、南九州に天下りする瓊瓊杵尊(にぎのみこと)の兄であるとされ、「天の磐船に乗り、河内の国の河上の哮峯(たけるがみね)に天下った」と伝えられています。哮峯は、北河内の交野市私市にある磐船神社の地とする説が有力です。『古事記』『日本書紀』にも饒速日尊について同様の記述がありますが、『古事記』では饒速日尊は神武天皇の後を追って天下ったとし、『日本書紀』では饒速日尊が神武天皇の前に天下ったとしています。「天下る」とはこの場合東遷を意味し、饒速日尊は当初の本拠地であった北九州の遠賀川流域付近から三十二人の従者と二十五部の物部(軍団)の船団を率いて瀬戸内海を東進し、北河内の交野市にある磐船神社附近に立ち寄ったと推察されています。さらに饒速日尊は大倭の国の



石切劔箭神社上之社跡



石切劔箭神社本殿と鳥居



饒速日尊墳墓(生駒市白庭台)

鳥見の白庭山にうつり、大和地方の先住の豪族長髓彦(ながすねひこ)の妹である、登美夜毘売(とみやひめ)別名三炊屋媛(みかしきやひめ)を娶り、可美真手尊(うましまでのみこと)をもうけたとされています。神武天皇東征に際してお互いに所持していた天の羽羽矢(あまのははや)を示し合い共に天照大御神の子孫であることがわかり、饒速日命は神武天皇軍に帰順したとされています。饒速日尊が亡くなったときに天の羽弓矢(あまのはゆみや)、羽羽矢(ははや)、神衣帯手貫(かむみそおびたまき)の三つのものを、登美の白庭の邑に埋葬して墓としたと『先代旧事本紀』は綴っています。現在奈良県生駒市白庭台には饒速日命墳墓とされる碑が建てられています。

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。  
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。  
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

# Kawazumi Report



## 春季ハイキング

### 草香山の自然と史跡を巡る

二〇二二年四月三日(日)開催

季節の花が咲くこの季節に、草香山の自然と史跡を巡る春季ハイキングを、東大阪まちガイドボランティア川向章介氏の案内により行いました。今回は近鉄石切駅近くの旧生駒トンネル脇から山道に入り、石切場を経て目下園地・こぶしの谷で咲き始めたこぶしの花と山桜を楽しみました。その後辻子谷コースから下って標高四百メートルの山腹に建つ興法寺を訪ね、歴史ある建物と桜の花を見てまわりました。更に下って辻子谷の水車を見学して帰路につきました。草香山に点在する史跡と周辺に咲く色々な種類の桜の花などの自然を存分に楽しんだ一日となりました。



春を感じながらの自然と史跡めぐり  
興法寺と桜(上) くさか園地・石切場跡(下)



ひとりひとりにご指導いただきました。



職人さんにまけないくらいの仕上がりに

## 古民家で手作り和菓子体験

### 東大阪の和菓子店 「菓匠庵 白穂」

二〇二二年四月十七日(日)開催

地域の老舗和菓子店・菓匠庵白穂店長の新澤貴之氏の指導・協力により、築三百五十年の古民家旧河澄家で手作りの和菓子をつくる体験会を開催しました。本イベントは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、作った和菓子は家に持ち帰ってもらうことで実施しました。手作りした和菓子は、練切細工(ねりきりざいく)という生菓子づくりで、季節の花である藤と花水木の二種類の制作に挑戦してもらいました。参加者からは貴重な体験ができて楽しかった、家で抹茶と共にいただくのが楽しみです、など初めての体験を存分に楽しんでいただいた一日となりました。

## バルーン体験教室 ハートやお花を つくってみよう!

二〇二二年四月十七日(日)開催

東大阪在住のまぎーマモル氏をお招きして、バルーンで花や動物などを作るバルーン体験教室を開催しました。まぎーマモル氏は東大阪市を中心にボランティアでマジックバルーンショーを累計三千回以上開催されています。今回使用されたカラフルで細長いバルーンは、曲げたりねじったり繋ぎ合わせたりして様々な形の作品を作ることができ、参加者は、マジックショーを楽しんだ後、鮮やかな色の花や、ハートと子犬の作品などを作って楽しみ、分かり易い説明で色々な風船を皆で作って楽しい時間を過ごした体験となりました。



旧河澄家で、初のイベントを楽しみました。



旧河澄家HP  
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>  
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>  
Twitter情報ページ→ [https://twitter.com/kyu\\_kawazumike](https://twitter.com/kyu_kawazumike)  
Instagram情報ページ→ [https://www.instagram.com/kyu\\_kawazumike/](https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/)



1 小暑 七夕の朝 9時45分、花芽を発見。  
2 5日め、大きな蓮葉より花芽伸びる。  
3 11日め、蕾のまま大きくなり、少し花開く。  
情報を得ては試し、手塩にかけた蓮の開花。  
お世話をしたきた庭管理スタッフと原始蓮。  
4 13日め、花開く。16時33分、二輪め花芽を発見。



原始ハスの花開く

三年越し。蓮の花が咲きました。  
旧河澄家東隅庭にて、季節の指標である二十四節気の11番目の節気「小暑」七月七日午前9時45分に花芽をみつめました。井上家の管理する蓮池の原始蓮が美しく咲きはじめるころ、スタツフそれぞれが旧河澄家東隅庭を覗き込む光景がみられました。  
蓮の花は泥の中で育ち、美しい花を咲かせます。「泥中の蓮」という言葉があります。汚れた環境下でも、その汚さに染まらず、清く生きることという意味があります。コロナ禍とともに、開花した蓮に強く美しく生きることを教えられているように感じます。

三年越し  
「すっごく、  
原始蓮咲く」



峰滝ゼミ

七夕のぼり作り&コンサート

峰滝ゼミ企画運営による「卓上鯉のぼり作り」とアンサンブルビバークエによるコンサートを四月二十四日(日)に行いました。はじめに卓上鯉のぼり作りを行い、ゼミ生と一緒に色々なデザインや絵を描き、自分だけの鯉のぼりを作りました。子どもたちは、ゼミ生と楽しくおしゃべりしながら、思い思いの鯉のぼり作りを楽しみました。「卓上鯉のぼり作り」の後は、アンサンブルビバークエによるコンサートをみんなで鑑賞し、子どもたちはきれいな音色に聴き入っていました。  
またイントロクイズでは子どもたちが積極的に手をあげて答え、コンサートの盛り上がり大盛況のイベントになりました。



ゼミ生と楽しくおしゃべりしながら

畿学  
近大  
KINDAI UNIVERSITY



自分だけの鯉のぼりが完成

# 端午の節供展

旧河澄家では、毎年5月5日の端午の節句に合わせて、旧河澄家に伝わる当世具足、寄贈いただいた昭和時代の鯉のぼり、五月人形を展示しています。

本年も例年どおり、展示を行いました。



本来、端午の節句というと旧暦（太陰太陽暦）の5月5日、入梅のじめじめした時期の行事でした。現在の太陽暦に改めた明治6年頃の鯉のぼりは真鯉だけで、後に緋鯉が加わり、昭和時代に子ども鯉が付加されました。そのため、現在見られる五月晴れの空に鯉のぼりが泳いでいるイメージというのは、昭和時代に入ってからのものです。

しかしながら、近年では、少子化や住宅事情、生活習慣の変化から戸外で鯉のぼりを立てる家もめっきり見かけなくなりました。地元で市民活動をされている方が、今年は鯉のぼりを立ててくれるところが少なく、旧河澄家で立ててくれるところが良かったとおっしゃって下さいました。大きな鯉のぼりが空を泳ぐ勇壮な景色は、このような展示施設で見ることができない特別なものになりつつあります。

旧河澄家に伝わる当世具足も合わせて展示しました。当世具足は、近代の甲冑の総称で甲冑の最後の型式です。武家社会から始まった男児の出世や武運を祈って端午の節句に甲冑や甲人形を飾る風習が、江戸時代、商家や町屋にまで広がります。これが五月人形につながっていくのですが、「枚岡市史」（昭和40年3月発行）によると、日

下では端午の節句に五月人形を飾るといった風習は特に見当たりません。旧家では元々床の間に具足を飾っていたようです。

日下村最後の庄屋である井上家も、端午の節句には五月人形などではなく、床の間に具足を飾るとご当主がおっしゃっていました。

今回の具足の展示では、普段みることのできない背中（はたさしもの）について、焦点を当ててみました。旗指物は、具足の背面についた旗を立てる装置です。古いものは、筒が付属しましたが、旧河澄家所蔵の具足には筒はありません。旗は、合戦の際に背中を立てて、自らの所属や役割を視覚的に示す重要な役割を果たしました。上の「角合当理（かくがたり）」と呼ばれる装置を通して「待受（まちうけ）」で受けます。

五月人形の背中に旗指物がついているかどうか、探してみるのも面白いかもしれません。五月人形を飾る以前の具足を飾る伝統がかったの庄屋敷では続いていました。



②待受



①角合当理



具足背面の旗指物

春から初夏の花々と歌に親しむ

# 万葉の花写真展

令和4年  
5月13日(金) ▶ 6月12日(日)

新型コロナウイルスの影響により2021年に開催中止となった企画展示「春から初夏の花々と歌に親しむ 万葉花写真展」は、2年越しの開催となりました。華道家で、万葉の花研究家の片岡寧豊氏が万葉集に詠まれた植物と歌、歌の解説をわかりやすく紹介した解説入りパネル29点と、「奈良花写真の会」の皆様が撮影した春から初夏に咲く万葉集に詠まれた花の様々な表情の写真30点を展示しました。



万葉の花写真展 展示風景  
主屋 ザシキにて

『万葉集』とは  
奈良時代末期(759年から780年の間)に成立したとみられる日本最古の和歌集です。有名な歌人の歌だけではなく、天皇、貴族、下級官僚から防人(北九州地域の防衛にあたった兵士)や農民など様々な身分の人々が詠んだ歌が全20巻約4500首がおさめられ、古代の人々の暮らしを知る貴重な史料になっています。  
その三分の一にあたる約1500首で植物の歌が詠まれ、山野に花を咲かせる草木、野辺に咲く花に親しみ、寄り添い、自然を大切に想う万葉人のところに触れることができます。  
コロナ禍のいまこそ、素直に歌を詠んだ万葉人の心に触れ、いまを生きる心の支えや励みになるかもしれません。万葉の花たちとともに美しい言葉に触れてみませんか。

それぞれが撮影する花の表情

## 万葉の花写真展

万葉の花講座をもつ、片岡寧豊氏が樹齢約500年の榎の木がある旧河澄家主庭を訪れたご縁で、展示・イベントの開催に繋がりました。片岡氏の著書「新装改訂版 万葉の花 四季の花々と歌に親しむ」(青幻舎)、「やまと花万葉」(東方出版)より万葉集に詠まれた植物と歌、歌の解説をわかりやすく紹介した解説入りパネルは29点は片岡さんの撮影した写と文によるものです。片岡氏のご紹介で、いつも素敵な花の表情を撮影されている「奈良花写真の会」の皆様の写真30点を展示しました。昨年はコロナ禍の中、大和郡山市から写真パネルを搬入後、緊急事態宣言(臨時休館)となり、それでも惜しむように展示風景を撮影し、寂しく虚しい気持ちで片付けしたことを覚えています。いつも一緒に微調整しながら、丁寧に展示準備、片付けをしていただいています。万葉の花の美しさを撮影するだけでなく、万葉の花写真から優しいところも伝わってくるような気がします。



昨年中止になった時の様子  
奈良花写真の会

万葉の花研究家  
片岡寧豊氏



## 河澄家の庭の草木と万葉の花たち 万葉の花講座

万葉の花写真展の期間中、5月15日に華道家で万葉の花研究家として活躍の片岡寧豊氏による万葉の花講座を開催しました。旧河澄家の庭に咲く万葉集に詠まれた初夏の花たちや草木、植物を片岡氏のわかりやすい解説とともに散策しました。初夏の風を感じながら万葉集に詠まれている植物、36種類の植物と和歌について学びました。主庭東隅にある天然記念物「日下のかや」榎、金木犀、南天、樫、紫陽花、蓮、梔子、槿、山吹、薔薇、梅、万両、十葉、千両、葉蘭、杏、彼岸花、柚子、水仙、木通、三葉木通、紫片喰、梨、柿、枇杷、いろは紅葉、樟、橙、銀杏、若紫、斑入り石路、斑入り薔薇、射干、檜まで身近にある万葉の花の魅力に触れました。



万葉の花講座の様子



河澄家の家紋



丸に三つ違い沢瀉

# 〈2022年9月〜〉 旧河澄家 イベントカレンダー

沢瀉は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似ることから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性がございます。詳しくはお問合せください。

## 蔵にて昔の道具展

5/17(火)  
〜9/25(日)

旧河澄家主屋北側にある蔵の1階で、企画展「灯りと暖房」を開催しています。灯りと暖房は、生活に欠かすことのできない道具であり、より良い生活を営もうとする先人の知恵でもあります。さて、この道具たち、既に使い方がわからない人たちが多くいるようですので、是非ご覧になって、確認してみてくださいね。



何に使うのかな?

見学無料

## 古代体験会 はにわを作ろう!

9/23(金・祝)

大阪府立近つ飛鳥博物館にご協力いただき古墳時代や埴輪について学びます。実際に粘土を使って、はにわ作りを体験します。古代人の気持ちになってオリジナルのはにわ作りをしてみませんか。はにわ作品は、乾燥し、焼成に時間がかかりますので、後日の引取りになります。



参加無料

## 郷土の人々 紙芝居画展

8/26(金)  
〜9/25(日)

『お寺の出前! 紙芝居屋亭』  
浄土真宗本願寺派観念寺住職 宮本直樹氏が東大阪市にゆかりのある人々「雄略天皇と若日下部王」「神武天皇」「楠木正行」をあたたかみのある自作の紙芝居を原画と複写にした紙芝居を展示し、わかりやすく楽しく紹介します。



見学無料



一枚一枚手描きした味わい深いあたたかみのある作品

## 論語の素読会

毎月  
第2・第4  
土曜日

声に出して文字を読む「素読」  
素読は、江戸時代の寺小屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言葉をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。



参加無料

きゅうかわずみけ

## 東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39  
電話番号 TEL/FAX 072-984-1640  
ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>  
開館時間 午前9時30分〜午後4時30分  
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)  
祝日の翌日・12月29日〜1月3日  
入館料 無料  
駐車場 5台(無料)  
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

### ◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- ・近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
- ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分
- ・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条畷行き」または「住道行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩15分
- ・JR学研都市線「住道駅」または「四条畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合

- ・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

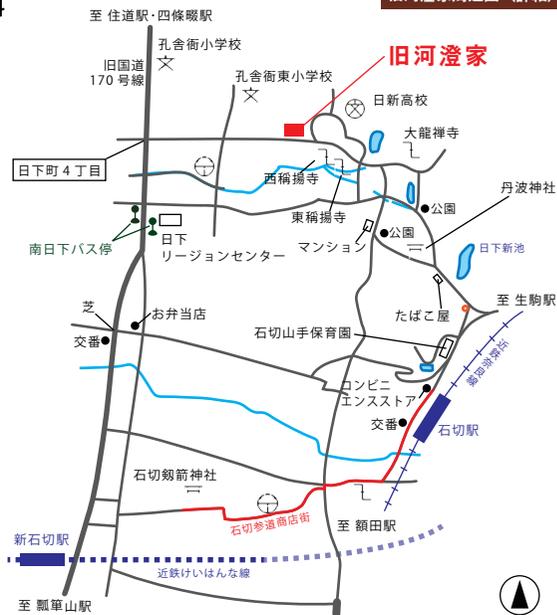
◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL:072-939-7861

FAX:072-952-4340

URL <http://www.asuwell.co.jp>

E-mail [mail@asuwell.co.jp](mailto:mail@asuwell.co.jp)

### 旧河澄家周辺図(詳細)



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。



JISQ9001:2015(ISO9001:2015)/全事業所  
JISQ14001:2015(ISO14001:2015)/全事業所  
建物総合清掃安全管理・施設保守管理・建築物  
衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理

